

第3回で伝統的ケインズモデルとDSGEモデルは、将来の期待を考慮しているか否かの違いがあり、それによって減税政策の効果が大きく変わることを述べた。伝統的ケインズモデルとDSGEモデルは、需要決定型と供給決定型というもう一つ大きな違いがあり、これは政府支出の効果に大きく関わってくる。

簡単にするため海外部門を無視すれば、財市場の均

やさしい経済学

財政政策の効果

消費抑える政府支出

衡条件は、総生産＝消費＋投資＋政府支出で与えられる。伝統的ケインズモデルは需要決定型であるために、右辺の需要項目が増えれば、それに伴い左辺の総生産も増える。政府支出が1単位増えれば、総生産も1単位増えることになる。

また、可処分所得が増えた分、消費を増やし、第2回で触れた乗数効果を伴って総生産を押し上げていく。伝統的ケインズモデルにおいては、政府支出乗数は基本的に1を超える。

DSGEモデルは供給決定型であるため、左辺の総生産は、資本（生産設備）や労働といった生産要素によって決まる。従って、いくら政府支出を増やしても

慶応義塾大学助教 江口 允崇

資本量と労働量が不変であれば総生産は増えず、政府支出乗数はゼロになる。通常、資本量はすぐには変わらないので、労働がどう反応するかが鍵となる。

一般的にDSGEモデルでは、家計は消費と余暇から効用（個人の満足度）を得る。さらに生涯を通じたトータルの所得の下で、生涯の効用を最大化するように消費と貯蓄、および余暇（裏を返せば労働）の意思決定を行う。政府支出が増大した場合、供給決定型のDSGEモデルでは即座には総生産は増えない。

一方、政府支出の財源はどこかのタイミングで増税によって賄われなければならず、家計の生涯の可処分所得が減少し、消費と余暇を減らすことになる。家計が将来の増税を予測するの

で、政府支出の増大が消費を抑制してしまうわけだ。ただ、余暇が減れば労働が増えるので、労働の増加を通じて総生産は上昇する。

この総生産はどのぐらい増えるのか。通常、政府支出が1単位増加しても総生産は1単位より大きくはならず、政府支出乗数が1以下であることが米コロンビア大学のマイケル・ウッドフォード教授の研究などで明らかになっている。